

広報



兵庫医科大学



兵庫医療大学



兵庫医科大学
兵庫医科大学病院
兵庫医科大学付属看護専門学校



兵庫医療大学



兵庫医科大学篠山病院
リハビリテーションセンター
ささやま老人保健施設

特集 座談会「連携を進め、さらなる改革を」

05 年頭の言葉

07 最近の主な出来事

< 兵庫医科大学 >

09 大学祭「醫聖祭」

12 秋期教員・保護者懇談会 / 学生相談室からのお知らせ

13 篤志解剖体慰霊祭 / 推薦入試結果 / 大学院入試結果

14 マイアミ大学短期留感想

< 兵庫医科大学病院 >

15 肝疾患センター長就任挨拶 / 第3回兵庫医科大学がんセンター講演会

16 健診センター長就任挨拶 / 第5回病診・病病連携の会

< 篠山病院 >

17 篠山病院長就任挨拶

18 ささやま探訪

< 兵庫医療大学 >

19 大学祭「海鳥祭」

22 「ボーアI4大学による連携事業」採択 / 神戸中央区と連携協力に関する協定締結

23 推薦入試結果 / 臨床薬学研修センターについて

< 看護専門学校 >

24 ホームカミングデイ開催

< 学校法人兵庫医科大学 >

25 理事・評議員の異動 / 規程等の制定・改正 / 篠山物産展開催

26 卒業生紹介 ~ 西原 弘道さん(兵庫医科大学 第15期生)

日本医師会バスケットボール優勝報告

27 兵庫医療大学のための募金状況報告

28 職場リポート

~ 兵庫医科大学 教務学生課 / 兵庫医科大学病院 看護部 10-9病棟 /
兵庫医療大学 教育・学生支援グループ ~

31 Join us! - 課外活動紹介 -

~ 兵庫医科大学 ゴルフ部・サッカー部 / 兵庫医療大学 サッカー部・軽音楽部 ~

34 エコキャップ運動にご協力ください!!

連携を進め、さらなる改革を

平成20年を振り返って

森田:平成20年は、社会的に年金問題、偽装問題、原油価格上昇による物価値上げなど、また、経済的には米国発の金融危機等国民生活に大きな影響を与える事件があり、更に、本学を取り巻く環境においても、救急医療のたらいまわし、地域医療の崩壊に象徴される医師不足、地域、診療科偏在が大きな社会問題となり、従来の医師数抑制から一気に転換し、医学部学生定員の増加となり、本学も来年度から10名の増員が行われることになりました。一方、経営面では2年連続の帰属収支の赤字から、脱却できず本年度も厳しい予測となり、構造的な赤字要因の解決が求められています。このような状況を踏まえて、先ず、平成20年を振り返って総括をお願いします。

新家:法人として一番大きな出来事といえばやはり篠山病院の存続を決めたことですね。地域医療に対する本学の意向、流れというものを確立して地域総合医療学講座を設置し、福田院長を迎えました。全国的に問題になっている地域医療の対策に対応できるようになったということです。それから、2年目に入った兵庫医療大学が順調に成長しているということが挙げられます。兵庫医科大学病院に関しては、前半は経営面で苦しい思いをしましたが、いろいろな新しい手が打たれ後半になって少し回復してきたところとところです。



新家理事長

波田:兵庫医科大学の新しい取り組みとしては、今年から1年生の人文社会系の科目について、関西学院大学で受講して試験まで受けるという試みを始めたということです。それから2番目は、3年生の学生を基礎医学教室に配属したということ。これに関しては学生も教員も評価が高く、有意義だったと言えると思います。それから、国際交流ではクロアチア・リエカ大学医学部との交換留学が始まり、リエカ大学から3名を受け入れ、本学から3名がリエカ大学で学ぶなど、お互いに交流を深めました。これもどちらの学生からも好評で、来年も引き続きやっていく予定です。

山村:まず診療面では、今まで患者さんからは専門領域がわかりにくかったナンバ－外科を、肝・胆・膵外科、上部消化管外科、下部消化管外科、乳腺・内分泌外科、小児外科の5つの部門に再編しました。それから、4月に兵庫県から肝疾患診療連携拠点病院に指定されまして、10月には肝疾患センターを開設しました。また、前々から予防医学への貢献を考えておりましたが、ようやく11月に健診センターを開設して人間ドックを開始しました。あとは、IBDセンターの構想があり、これも今年度中に組織として固めたいと思っています。それから経営面。入院患者数はそれほど増えていないのですが、

在院日数を減らしてきたことが一つの大きな要因となり、一日入院の単価が6万円台に上がり収入の面での改善が見られました。また、医療材料費削減が大きな課題ですが、12月から院外処方が完全実施となり医薬品が削減されている一方で、医療材料費はやや増加傾向にあります。このあたりは今後、物流センターが十分に機能するようになると削減効果が出てくるのではないかと期待しています。

松田:兵庫医療大学は、2年目で学生も倍増して活気が出てきました。“ボーダレス”や“チーム医療”の考えが浸透してきたのではないのでしょうか。チュートリアル教育も1、2年生でそれぞれ行いましたし、今年は兵庫医科大学の学生と一しょにやります。教育面では順調に進んできていると思います。施設面では、体育館の工事が平成20年6月から始まり、年度内には完成します。あとは薬学部の先端医薬研究センターや、動物実験センターもでき、やっと研究と教育の両方の施設も整ってきました。兵庫医科大学との連携に関しては、医学・医療教育研修センターが発足して運営委員会もでき、少しずつ動き出しました。また、地域連携では「ボーアイ4大学による連携事業」が文科省の大学支援事業に採択されたことが、対外的にも非常に大きなインパクトになりました。これは公開講座や地域連携プログラムなどの取り組みが認められたということだと思いますので、今後そのような動きにずいぶん拍車がかかると思います。そういう意味で地域連携実践センターの格がずいぶん上がってきたと思っています。研究面では、先端医学研究センターが動いていますが、それ以上に教員の方々が非常にアクティブでやる気を出してくれていて、今年度も多くの科学研究費補助金が交付されました。

佐藤:新しく平成20年4月から就任してきた教員の方々を加えて教員力が高まっているということと、学部それぞれが独自の専門性というものを意識して教育に力をいれているという印象が強いですね。もう一つ、来年から始まる専門実習の前段階として、兵庫医科大学の看護部の方に来ていただいて、臨床、特に実習施設としての大学病院との連携もとっています。リハビリテーション学部もどんどん臨床の中に入っていっていますし、薬学部も6年教育の順調な動きをしており、2年目としての歩みは十分にできているという印象を受けております。

平成21年度の抱負 一連携を進め、さらなる改革を目指して一

森田:ありがとうございます。平成21年度も財政的には厳しい年になりそうですが、何としても帰属収支を黒字にしないといけません。いろいろと計画し青写真を描くのも大切ですが、改革には一定の「我慢」が必要です。つまり合理化によるコスト削減を行うために、より一っその工夫が必要で、「現状維持」の発想では何も生まれません。また、立派な計画があっても次のDOとSEEが欠けていては絵に描いたもちになってしまいます。監事機能も強化され、内部監査室も組織された今、内部統制をより一層強固にし、教育、研究、診療における学長、

病院長等のリーダーシップを発揮できる風土を造っていかねばと考えます。そのあたりも踏まえて、今年の抱負をお願いします。

新家:兵庫医科大学と兵庫医療大学、篠山病院のトライアングルを広げて内容を充実していく、これに尽きます。兵庫医科大学について言えば、教育はかなり洗練された安定したものになってきています。篠山病院には大きな期待を持っています。国の方針として、地域医療、家庭医療あるいは総合医療というものにかなりウェイトがシフトされています。我々はそれを先取りしたと思います。篠山病院でも研究や教育ができるという形で、若い人にとって魅力ある病院にしていきたいと思います。それから兵庫医療大学では、兵庫医科大学と教育と研究面でもっと交流できるようなシステムティックな仕組みや環境作りがいると思います。そして、医学部との緊密な連携をアピールしていきたいと思います。

森田:中期事業計画もふまえて兵庫医科大学の抱負は、

波田:いちばん大きな問題は、医学部定員が10名増えるということ。学力に差が出ることも考えて夏休みの集中補講などで学力の底上げをやっていきます。それから、今までは内科のポリクリを各部門単位でやっているので教育力が弱いという指摘がありました。来年度からは、内科13部門のうち、3～4部門が協力し合って、同じ時期に臨床実習を行いますので、学生がいろいろな部門の患者さんを見て、話を聞くことが可能になります。国際交流という点では、国際交流センターを作って、事務組織も含めて充実、発展させたいと考えています。また、これからは地域医療対策が重要ですので、過疎医療、僻地医療対策を教育の中で取り組むために、福田先生の地域総合医療学講座と連携して県の取り組みとも合わせて行っていきたいと考えています。それからもう一つ、学力の強化対策ですけども、さらなる充実を目指して、医学教育センター、教務委員会と来年度に向けて検討を始めたいと考えています。



兵庫医科大学 波田学長

新家:兵庫医科大学に関して言えば、ようやく動き出した知的財産の蓄積や産学連携を強化してほしい。もう一つは、古くて新しい医師のモラルの再認識。本学独自のモラル教育というのを大学病院の場を通じて徹底していきたいですね。それから篠山病院にも関係しますが、欧米では専門家庭医というのがあります。日本でも総合診療科というものはたくさん大学にできていますが、内容的に充実しているとは言えないし、専門的に教育する機関もない。この専門家庭医を目指した教育もぜひお願いしたいと考えています。



左から、篠山病院 福田 能啓病院長、兵庫医療大学 佐藤 禮子副学長、兵庫医療大学 松田 暉学長、新家 莊平理事長、兵庫医科大学 波田 壽一学長、兵庫医科大学病院 山村 武平病院長、森田 泰夫事務局長

森田:山村病院長は、5年間、病院運営を担当されて、来年は交代ということになりますが、次へのメッセージとして、経営面でのご提案についてお聞かせください。

山村:今まで入退院の稼働率を上げようとプロジェクトチームを作って検討してきました。特に事務系を含めて入退院管理室を作り、入退院の管理をナースだけでなくドクターや事務もその中心になっていただいて、現在86%前後の稼働率をなんとか88から90%くらいまでは持っていきたいと考えています。それから、救急医療、ER室の充実。これは、入院患者数の確保もありますが、市民の救急医療のバックアップのために、まず第一段階として時間外外来にインセンティブを与え、次に救命救急センターと救急外来が綿密に連携し各診療科にも協力してもらってその体制を強化することが必要です。それからもう一つ、内視鏡センターを充実させ、短期入院での簡単な内視鏡での手術の件数を増やしていけば、これも病院の収支にプラスになると思います。これらを引き継いでやっていただければ必ず病院の収支は良くなると思います。



兵庫医科大学病院 山村病院長

森田:福田先生は新しく篠山病院長に就任されました。これから大変だと思いますが。

福田:篠山病院に行って気付いたのは、小さな壁があってチーム医療的なことができず、スタッフが本来持てる力をどうも発揮できてないということです。それが病院の収支、経営上のことにも影響してきているのだらうと考えています。今後の方策として、まず篠山病院の地域での知名度を高めること。2つ目は連携。開業医の先生との病診連携というのは常々やっていいますが、同じ地域にある総合病院と病病連携ができれば、救急医療対策も一しょに考えられる。それぞれの病院長からは地域のために前向きにがんばろうと言っていると思います。それからもう一つは、学学連携。篠山病院から兵庫医療大学に特別講義などでどんどん行っていただいて、篠山病院の知名度をあげていただければと考えております。一方、篠山病院が大学病院であることも忘れてはならないと思います。

現在、篠山病院には非常に専門性の高い先生方がおられます。ところが講座としては家庭医、総合医というのを看板に掲げる地域総合医療学講座だけです。私は家庭医を目指す人の専門性をより高めるために、専門の先生方が篠山病院に来ていただきたいと思っています。専門的なことをある程度学んだ家庭医が増えれば、その家庭医が地域の小児科や産科婦人科など専門性のある部分も、少し診療を負うことになりますので、多少コンビ受診が来ても家庭医が診ることができ、本当に専門性が必要な患者さんが来たときだけ専門医が出てくるというような2段階構えができるのではないのでしょうか。そういう意味で、専門性と一般の診療の融合というような方向で考えていきたいと思っています。

病院収支の面では、今まで篠山病院で取られていなかった栄養管理加算や高齢者在宅栄養指導加算を取るだけでもかなり収益が上がると思います。それから、病院内だけでなくリハビリテーションセンターとささやま老人保健施設でも活動するNST(栄養サポートチーム)の立ち上げを準備しています。栄養指導というのは、メタボ対策も含め様々な疾患のベースになりますので、もっと充実させてNSTと病院の医師が栄養管理をする老人保健施設というのを売りにしたいと思っています。また、篠山市では寝たきりの高齢者が多く、介護センターを含めて在宅医療、居宅医療ということも考えていかなければいけないと思っています。

森田:さて、兵庫医療大学は、いよいよ3年目を迎えて大学完成へ向けての正念場だと思いますがいかがですか。

松田:本年は学生も1,000人を越え、専門教育も始まりますし、看護学・リハビリテーション学は国家試験対策も視野にいれなければいけません。教育面では、チーム医療というアドバレーンが上りましたが、実際の教育の中ではまだ限られているのが現状です。やはり兵庫医科大学との連携をより一層緊密にしていかなければなりません。新しくできる医学・医療教育研修センターには非常に期待しています。教員だけでなく、看護学・リハビリテーション学などの専門職の方々もお互いに連携したい。そういう意味では、リハビリテーション関係においては篠山病院に非常に期待しています。事務系の業務の円滑化も重要です。スピードがあって無駄なく物事を決めていけるシステムの構築が必要だと思います。学生支援の面では就職先をどうするかということは非常に大事ですので、キャリアデザインセンターの開設が必要です。それから国際性も高めていきたいと思っています。昨年は看護学部が学生とともにデンマークで介護や福祉についての海外研修を行いましたので、それをきっかけにしたいと思います。せっかく神戸という国際性豊かな都市で学べる環境にいて、学生たちも期待していると思いますので、学長自ら旗振りをして進めていくべき大きなことだと思っています。

入試関係では、優秀な学生を集めるための高大連携が重要となります。教員の先生方が高等学校に講義に行ったりとよく頑張ってくれていますが、この高大連携をもっとシステム化していきたいですね。



兵庫医療大学 松田学長

佐藤:開学から2年が経過した今でも、志願者が増えているということ、世の中から大学として評価されているということだと思います。

今後も新しい大学や学部の新設が増える予想される中で、兵庫医療大学を定着させるためには、学生が自分の大学に誇りを持つこと、また兵庫医療大学に学生を送りたいと高校が言ってくれるような大学でなければいけません。また、看護学部は3年次の後期から臨床実習が始まり、色々な専門の現場に出ていきます。そうすると自分がどういう専門領域に進んでいくかというのも少しずつ固まっていく。高齢社会で、地域医療にシフトしていく日本にあって、地域住民の健康にいかに関与できる人材を育成できるかというあたりに含めて、3年次というのは多彩な教育が展開されなければいけないと思っています。

松田:研究面では、大学院設置の準備を始めなければいけません。1つの単科大学では大学院が作れない場合に複数の大学で作る連合大学院というのがあります。我々も、兵庫医科大学と連携してユニークな、我々のミッションに合った大学院を作っていきたいですね。薬学部も完成年度を待っていたらずいぶん先ですから、教員も事務も発想の転換をして、相手を動かすというぐらいの気概で、文部科学省が乗ってくるような面白い提案をしていきたい。兵庫医療大学らしい大学院の設置は、1法人2大学の大きなメリットを出すための大事なステップであり、兵庫医科大学にもぜひバックアップをお願いしたいと考えています。

佐藤:専門職という意味で言えば、学部教育はあくまでも基礎教育でその上に積み上げる大学院を作るわけですから、どんな学問領域を持っているかとか、どういうアドバンストコースを持っているかということが重要です。どういう大学院ができるかによって、各学部の評価も決まってくる。現在の大学院というのは、高度専門職者育成が非常に重要ですから、リハビリテーション学部は2つの学科をどのように育てていくかが課題ですし、看護学部に関して言えば、今アメリカでたいへん話題のNP(ナースプラクティショナー)なども含んだ専門看護師(CNS)のコースをどれだけ持てるかというのが、大学院の学生を集める鍵となります。このような部分を3年目に土台作りをしていかなければならないと思います。

波田:教員間の連携、共同研究についても両大学でプロジェクトチームを作ってやっていきたいですし、そのうちの1つが大学院の連携です。具体的な時期をはっきりとさせて、教育面でも研究面でも積極的にいっしょにやらせてもらいたいと思います。教育に関しては、チーム医療を担うための教育についての具体策が出来つつあります。これから、特に看護学部やリハビリテーション学部は実習なども始まりますし、医学医療教育研修センターを通して双方の希望を伝え、それをミックスしてお互いにうまくいくような教育体制を作りたいと考えています。

森田:これからの本学にとっては、従来の枠の概念を取り払った連携というのが重要ですね。山村病院長はどのようにお考えですか？



兵庫医療大学 佐藤副学長



森田事務局長

山村:兵庫医療大学との連携に関して言えば、実習教育をちゃんとやっていくためには例えば、チーム医療が実際の現場で行われていることを経験してもらうことや、学生が自分の将来像を描けるような体制を整えることも必要だと思います。人があってこそ教育ができるし、場所があってこそ教育ができる。篠山病院との連携についても十分な話し合いをしなければいけません。

福田:専門家庭医については、日本でも今年は、プライマリケア学会と総合診療学会、家庭医療学会の3つが集まって、専門医あるいは認定医の認定を家庭医にも出していくという方向に向かっていきます。そういう人材を育てるのが兵庫医科大学の新しい診療科で、篠山病院だと思っています。今後若手の指導してくれる先生方をお招きしたいと考えていますが、指導のためということであれば朝から晩までずっとなくても地域医療は実現できると思いますし、若い先生方については、研修を終えた時期に来ていただくと総合医または家庭医としての興味を持っていただけたと思います。指導する先生方にとっても、「育てる夢」と「ともに働く」生きがい生まれ、チーム医療の実践が可能になるでしょう。兵庫医科大学病院も含め皆さんの負担を減らすためと地域の人のニーズに応えるためには、そういうやり方がいいのかなと考えています。それで収入が上がってくれば、人も増やせるでしょう。

佐藤:平成21年度からの新しいカリキュラムの中で、統合看護実習というのが4年生の後期に行われます。その時には、ちょっと遠いですが、篠山病院で実習させていただければと思っています。

松田:篠山病院のスタッフにはこの間もNSTの講義をしてもらいましたが、チーム医療教育といっても座学中心ではなく、例えば15コマあったらそのうちの2コマくらい篠山病院に行くとか、私たちがフレキシブルに考えていきたいと思います。もう1点、私の希望ですが、薬剤師育成のために、卒業後2年くらいは病院で働いてもらって、様々な病気をみてから地域なり薬局なりに行ってほしい。病院薬剤師がこれだけ大事だということを示さないといけない。その点で、レジデント制をとっていただいたのは非常に嬉しい。どんどん広がってほしいと思います。

佐藤:私たちが連携の中で今一番考えていかなければいけないのは、来年1年間は兵庫医科大学を卒業する看護師がブランクになるということです。そこをどのようにサポートできるか。教員として、何かうまく連携できることを一所懸命に考えて、できる限りをやりたいと思っています。

教職員、学生に期待すること

森田:では最後に、教職員・学生に一言お願いします。
新家:皆さん、自らを、大学を、病院を変化させていきましょう。松田学長も言われましたが“ vote

for change”です。発想の転換が重要。私としてはできるだけ皆さんに変化を促し、それについて輝くような創造を引き出すような環境づくりをしていきたい。

波田:私が本学の学生に言いたいのは、医学部の学生というのは期待されているがゆえに行動や振る舞いがおのずから規制されるということ。その自覚の上に良い医師になるための最大限の努力をしてほしい。ぜひとも教員と職員が両輪になって、学生教育あるいは研究、診療面などで本学の発展のために教職員の方には努力してほしいですね。

山村:やはり職員の一人ひとりが、自分が経営面に対して何ができるか、ということをしっかりと考えてそれを発信してほしい。それともう1つ、医局だけでなく事務にも壁がある。その壁をぜひ破ってほしいですね。

福田:今年は、徳川家康が命じて作らせた篠山城の築城400年祭があります。兵庫医科大学の学生さんも兵庫医療大学の学生さんも一度篠山病院に来てほしいですね。それから、先ほどから申し上げている西宮、神戸、篠山のトライアングルが上手く機能するように、教職員・学生含めて取り組んでいただきたいし、私自身も積極的に取り組みたいと思います。

松田:学生の皆さんには、新しい大学をいっしょに作っていくという気概を持ってほしい。それが自分たちの将来の発展にもつながります。教職員は、やはり発想の転換です。ディスカッションとプランだけでなく、「Do It」もしっかりやっていきたいですね。

佐藤:教員はアトラティブ、魅力的になろうと常々言っています。そしてどんどん学生を惹きつけていきましょう。学生の皆さんには楽しい学び舎を教職員と共に築いていこう奮闘していただきたいと思っています。

森田:長時間、ありがとうございました。





平成21年 年頭の言葉

理事長 | 新家 莊平

謹んで新年のお慶びを申し上げます。新しい年を迎えるに当って、皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げますとともに、恒例に従って年頭の所感を述べさせていただきます。

昨つちのえね年は戊子。その干支にあやかっの鼠算的發展とは参りませんでしたが、大学として明日につながる数々の足跡を残すことが出来ました。

先ずは、篠山病院の存続決定。まさしく血を吐く思いの末の苦渋の選択でしたが、財政支援を背景とした兵庫県や篠山市の切実な要望に应运、これ迄通り篠山の地に地域医療の篝火を灯し続けることになりました。それがいかに社会の公器としての当為とは言え、わが国の各地で医療が崩壊しつつある昨今、その前途には険しい荊の道が予想されますが、この度再建される新病院は、旧来の在り方から脱皮し、西宮の本院との連携強化は言う迄もなく、地域の行政や医療機関等との協力関係をも深化しつつ、篠山の地域医療の安定した充実を図るとともに地域医療学教育の研修の場として総合医療を担う人材育成にも寄与することになりました。ようやく地域医療の再生に本腰を入れ始めた国の政策も天の時として新病院長の福田教授をはじめとする全スタッフの活躍を後押ししてくれることになるでしょう。

次に西宮キャンパスでの新規事業。教学に関しては、波田学長の指導のもと様々な改革が展開されました。外科講座の再編、総合診療部の内科講座への編入や救急災害医学講座の開設が進んでおります。専門的総合医の養成を担う地域総合医療学講座も篠山キャンパスを活動の拠点として新設され

ました。人事面で臨床系の教授に任期制が提案されていることは極めて先駆的な英断でした。

他学との交流も活気づいて参りました、前年度に学術連携協定を締結したクロアチアのリエカ大学との留学生交換が始まり、その友好のしるしとしてクロアチア大使の表敬訪問も受けました。関西学院大学との連携講座もスタートし、教養教育に新しい風が立ちました。

本学病院でも、任期の最終年を迎えた山村武平病院長の指揮のもと新しい変革が進みました。対外的なものとしては、「地域がん診療連携拠点病院」や「肝疾患診療連携拠点病院」としての指定を受けるとともに、「6大学連携オンコロジーチーム養成プラン」や「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」等に参画することにもなりました。

院内でも、一昨年開設されたがんセンターやPETセンターに引き続き、肝疾患センターや健診センター等も設置され、IBDセンターも立ち上がることになりました。病院経営に直接かかわる物流センターも組織化されました。院外処方も始まり、医師・看護師を対象とした保育施設も整備されました。

その他、上部消化管外科の笹子教授の胃がん手術に関する研究論文が世界トップレベルの英国医学誌に取り上げられ、改めて世界的名声を博したこと、潰瘍性大腸炎の手術件数が一機関としては国内で初めて1,000例を越え、又、腎移植も200例を超えたこと、更には食道癌の再発を規定する因子の同定に成功したこと等は本学にとって喜ばしいトピックスでした。

開学2年目に入った神戸キャンパスでも、松田学長のリーダーシップのもと、その基礎固めの営為が

順調に進みました。学生数も増え、新規教員の顔ぶれも揃いました。薬学、看護学とリハビリテーション学の3学部間のみならず医学部との連携も次第に強化されて参りました。その連携の要として「医学・医療教育研修センター」も新設されました。臨床薬学研修センターや薬用植物園も新しく整備され、体育館建設も着手されました。卒業生の就職のためのキャリアデザインセンターも開設準備を進めています。

ポートアイランド内の近接した大学との連携も進み、様々な共同プロジェクトが立ち上がるとともに、多彩な医療系の市民公開講座も活発になってきました。2年目にして初めて開催された大学祭「かい せうさい海巢祭」も学内の士気を大いに高揚しました。

その他、法人・大学・病院全体にかかわる組織として内部監査室や情報センター、更には長期的な寄付金募集のための大学基金も設置されました。このように、昨年中、法人全体は教育・研究・診療の各面のみならず、学内外の様々な局面でも着実な進化を遂げるとともに、将来を見据えた多くの種子も播かれてきました。

他方、大学の財政的基盤にかかわる経営面では、はなはだ残念なことに、過去2年続いた赤字を十分に改善出来ておりません。法人全体の約7割を担う病院の収支の悪化がこのような結果を招いたといえますが、医療収入が順調な伸びを示していたにも拘らず、人件費や医療経費の増加がこれを更に上回ったことが、その主要因に挙げられます。言う迄もなく、このような状況の底流には国の厳しい低医療費政策のもと、看護師不足、病床稼働率の低迷等の容易に是正し難い負の要素が横たわっている訳ですが、この2年余りにわたる窮状の打破のために必要なエネルギーがモチベーションを高めつつも道に迷ってしまっていたこともその要因として否めません。

しかし、年の後半になって、現況に対する危機意識がようやく全学的に共有され始めるとともに、病院長をはじめとする執行部のリーダーシップのもと、徹底した経営分析とそれに基づく様々な新規対策が効を奏し、その状況は次第に好転して参りました。今更ながら、本学には高いポテンシャルが秘められているのを思い知

らされましたが、同時に、“待ち”の姿勢がいかに不毛であるかも痛感いたしました。

そして、この丑年。歴史に残るような世界的な金融危機の真っ只中に、新年を迎えることになりましたが、年が改まったからといって別に抱負がリニューアルされる訳でなく、唯々、過去2年間にわたって押し進められてきた本学の中期事業計画を肅々として、あるいはダイナミックに推進していくばかりです。とは言え、予想以上に厳しい局面に立たされた本学にとって、経営改善による財政基盤の安定化は焦眉の最重要課題であります、西宮と神戸の2大学間の教育・研究の両面にわたる効率的な連携の強化や篠山病院医療の健全な再生等の課題もそれぞれが極めて重いものであり、これらに対して私達は連帯感を高めつつ、全員が一体となって取り組んでいかねばなりません。

勿論、そこで大きな推進力を発揮するのは言う迄もなく“change”、即ち変革への志向だと思います。先の米国の大統領選を制したのもこの一言でした。進化論のダーウィンも次のような言葉を残しています。「最も強い者が生き残れるのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残るのは変化する者である。」しかし、単に変化するだけでは生き残れる筈もなく、そこには豊かでユニークな創造がなければならぬは自明のことわり理です。

そして今、私達は自らのすべての知と心と身を研ぎ澄ましなが、絶えることのない「変革と創造」を繰り返していくことにより、兵庫の大地に根づいた3本の樹々をより美しくより逞しく成長させていきたいと念じています。言う迄もなく、これからの道のりは今にもまして厳しいでしょうが、山の彼方の空遠くには明るい未来が待っているものと確信しています。

最後に、本学の教職員、役員、同窓会や後援会の皆様。どうか、各人が学校法人兵庫医科大学という運命共同体の構成員としての意識を高め、大学の新しい発展に果敢に取り組んでいただくようお願いして、新年のご挨拶といたします。

最近の主な出来事
10月 OCTOBER

6	兵庫医科大学	知的財産セミナー 主催:特許庁、近畿経済産業局、兵庫医科大学 協力:特定非営利活動法人 KGC	4-1講義室において「大学と特許～大学関係者が知っておきたい知的財産の話～」の演題で、山口大学 知的財産部門長 佐田 洋一郎教授にご講演いただきました。約60名が参加しました。
8	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「気管支喘息について」をテーマに、第3会議室で内科 リウマチ・膠原病科 松井 聖准教授が講演を行いました。
	兵庫医科大学	科学研究費補助金公募要領等説明会	3-1講義室において科学研究費補助金制度の概要等について、申請書類の書き方、平成21年度応募について(変更点など)を内容とする説明会が行われました。
11・12	兵庫医療大学	大学祭「海祭祭」	→P19～21をご覧ください
13	兵庫医科大学	がんプロ6大学連携シンポジウム	リサイクルホール(大阪市北区)において下記の内容で開催されました。 基調講演「ともに生きる～がん治療の未来～」 近畿大学大学院医学研究科 中川 和彦教授 対談「がん患者にできること、家族にできること」 「癌と共に生きる会」事務局長 濱本 満紀さん・「のぞみの会」代表 渡邊 美紀さん 以上「大阪がん医療の向上をめざす会」運営委員 パネルディスカッション「チーム医療でがん治療が変わる」近畿圏6大学の取り組みとがん治療の未来」 【バナー】大阪市立大学大学院医学研究科 工藤 新三准教授、近畿大学大学院医学研究科 西村 恭昌教授、神戸市看護大学大学院看護学研究科 鈴木 志津枝教授、兵庫医科大学がんセンター 薬剤師 藤澤 浩美氏 【コーディネーター】近畿大学医学部堺病院 福岡 正博病院長、産経新聞社編集委員兼論説委員 坂口 至徳氏
18	兵庫医科大学	第3回兵庫医科大学がんセンター講演会	→P15をご覧ください
	看護専門学校	ホームカミングディ	→P24をご覧ください
21	兵庫医科大学	篤志解剖体慰霊祭	→P13をご覧ください
22	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「睡眠時無呼吸症候群について」をテーマに、第3会議室で内科呼吸器・RCU科 飯田 慎一郎助教が講演を行いました。
23	兵庫医科大学病院	医療講演会「院内暴力」	3-3講義室(3-1、2講義室で同時中継)において、「院内暴力について」をテーマに井上法律事務所 井上 清成弁護士にご講演いただきました。医師、臨床研修医、看護師、メディカル、事務員等、約300名が参加しました。
25	兵庫医科大学病院	第8回県民医療公開講座 共催:兵庫県医師会・兵庫医科大学病院・アストラゼネカ株式会社	「乳がん - 個別化する治療選択とサポート体制 - 」をテーマに、兵庫県医師会館(神戸市中央区)において開催されました。 総司会 兵庫医科大学 総合診療内科学 立花 久大教授 講演1.「乳がんの検診、診断～見逃さないで、乳房のサイン～」さきたクリニック 先田 功院長 講演2.「乳がんの治療～より適切な治療を目指して～」兵庫医科大学 外科学(乳腺・内分泌外科)三好 康雄准教授 講演3.「乳がんの再建術～自然な乳房をつくる～」兵庫医科大学 形成外科学 垣淵 正男教授 講演4.「乳がん患者へのサポート～ひとりで悩まないために～」兵庫医療大学 看護学部 鈴木 久美教授
29	兵庫医科大学病院	医療講演会 医療安全・感染対策合同講演会	3-3講義室(3-1、2講義室で同時中継)で行われ、医師、看護師、メディカル等、約700名が参加しました。 講演1(医療安全)「麻薬の適正な取扱いについて」薬剤部 濱口 常男次長 講演2(感染対策)「スタンダードプリコーションの徹底～新しいガイドラインから～」感染制御部 一木 薫師長



市民健康講座「気管支喘息について」



大学祭「海祭祭(カイキョウサイ)」



ホームカミングディ



篤志解剖体慰霊祭



市民健康講座「睡眠時無呼吸症候群について」



医療講演会「院内暴力」



第8回県民医療公開講座



「ボーアイ4大学による連携事業」公開講座

11	学校法人兵庫医科大学	自衛消防訓練＜総合訓練＞ 1号館13東病棟	深夜帯に7東病棟器材庫での火災を想定し、約100名が自衛消防訓練に参加しました。今回は休棟中の13東病棟を使用しました。仮想患者27名を13東病棟から12階ホールに一次避難させた後、消防署による梯子車救助がありました。その後、5号館南側芝生広場にて消火器訓練を実施しました。
	兵庫医療大学	平成20年度設置計画履行状況調査 (面接調査)	平成19年度に開設した本学については、政令に基づき、完成年度(第1期卒業生を輩出する年度)までの間、大学設置・学校法人審議会大学設置分科会(文部科学省所管)により、授業科目の開設や教員組織の整備など開設後の状況等について調査を行う、設置計画履行状況調査を例年受けることとなっています。今年度は文部科学省本庁にて面接調査が実施されました。本学からは理事長、学長以下計8名が出席しヒアリングが行われましたが、特に問題なく終了しました。本調査の結果については同審議会に報告され、後日公表されます。
12	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「人工関節の最近の進歩」をテーマに、第3会議室で整形外科 吉矢 晋一教授が講演を行いました。
	兵庫医療大学	自衛消防訓練	4時限目終了時の16時10分にM棟1階からの出火を想定し、約80名(教職員約30名・約学生50名)が自衛消防訓練に参加し、通報・初期消火・避難誘導を行いました。また、避難終了後に屋内消火栓の取扱い訓練(実際にホースを握り、バルブを開いて水圧を体感しながらの放水訓練)も行いました。
15	兵庫医療大学	平成21年度推薦入学試験 ＜全学部 専願制＞	薬学部 併願制A日程:11月16日 薬学部 併願制B日程:12月6日 →P23をご覧ください
16	兵庫医科大学	平成21年度推薦入学試験	→P13をご覧ください
19	兵庫医科大学	神戸市中央区との連携協力に関する協定の締結(3大学合同調印式)	→P22をご覧ください
22	兵庫医科大学	後援会秋期教員・保護者懇談会	→P12をご覧ください
22・23	兵庫医科大学	大学祭「醫聖祭」	→P9～11をご覧ください
26	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「放射線治療の最前線」をテーマに、第3会議室で放射線科 上紺 屋 憲彦臨床教授 が講演を行いました。
	兵庫医科大学病院	大病院連携型高度医療人養成推進事業(文部科学省補助事業)における、第1回FD講演会	9-2講義室において、「『モチベーションリーダーシップ』組織を率いるための30の原則」という演題で、株式会社 リンクアンドモチベーション代表取締役社長 小笹 芳央氏にご講演いただきました。
	兵庫医科大学	平成20年度第3回学術講演会	9-1講義室において開催され、3名の発表がありました。 「パーキンソン病の嗅覚障害」内科学 神経・脳卒中科 梶山 幸司 臨床准教授、「多血小板血漿(PRP)の臨床応用について」形成外科学 西本 聡准教授、「脳核医学の現状と展望」核医学・PETセンター 奥 直彦准教授
29	兵庫医療大学	「ボーアイ4大学による連携事業」公開講座	“高齢者を介護する人のための支援”「高齢社会と介護保険」をテーマに兵庫県健康福祉部社会福祉局高齢社会課 養成・審査係 千田 達也係長が講演されました。



自衛消防訓練＜総合訓練＞



市民健康講座「人工関節の最近の進歩」



自衛消防訓練



市民健康講座「放射線治療の最前線」



第1回FD講演会



学術講演会



「ボーアイ4大学による連携事業」公開講座

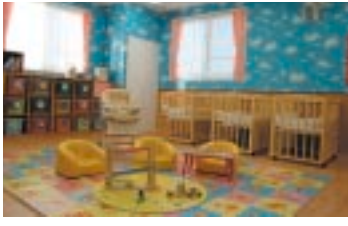
11月 NOVEMBER

6	兵庫医科大学病院	人間ドック開始	→P16をご覧ください
8	兵庫医療大学	「ボーアイ4大学による連携事業」公開講座	「中高年における うつ の理解と対応」をテーマに、リハビリテーション学部作業療法学科 湖海 正尊教授が講演を行いました。

TOPICS 保育園がオープンしました

12/1 平成20年12月1日に保育園がボー「兵庫武庫川園」がPETセンター南隣のビル4階にオープンしました。これは、子育て支援の充実を求める教職員の声に応えるため、保育園と提携し、本学が定員39名のうち30名を教職員の専用枠として確保したものです。専用枠では週2回(火・金)24時間保育を行い、夜間勤務にも対応します。保育園は衛生と安全を考慮した明るく快適な施設となっており、手作り給食、多彩な行事など工夫を凝らした保育プログラムが用意されています。まだスタートしたばかりでお子さんの人数は少ないですが、子育て中の教職員が今後安心して仕事と子育てを両立できる環境づくりに取り組んでいきます。

入園者募集内容については、学校法人兵庫医科大学ホームページをご覧ください。
URL: http://www.corp.hyo-med.ac.jp/
最新情報(保育園「募集案内」のお知らせ)



兵庫医科大学 医聖祭

平成20年11月22日(土)、23日(日)に第37回大学祭「医聖祭」を開催しました。

『smile!!』

「この大学祭を通じて一人でも多くの人に笑顔になってもらいたい」という思いを込めて、“smile!!”をスローガンに掲げ、兵医カップ(各種イベント)、お笑いライブをはじめ、模擬店、文化部展示、バザーやフリーマーケット、入試案内に加えて、解剖展示や医療機器展示、禁煙促進ブースを設けるなど、医科大学ならではの催しも実施しました。今年は新たに、エコキャップキャンペーン活動の紹介も行いました。医学講演会では阪神タイガースの新井貴浩選手が講師をしてくださり、盛況な大学祭となりました。

ECOCAPキャンペーン

エコキャップ運動はペットボトルのキャップを集めてリサイクルし、海外の子供たちにワクチンを提供するボランティア活動です。来場者に趣旨を説明し、協力を呼びかけました。



献血

兵庫県赤十字血液センターにご協力いただきました。兵庫医療大学の学生も参加してくれました。



禁煙促進

タバコの怖さを知ってもらい、禁煙を呼びかけました。



解剖展示

テーマは“クスリと人体”一般によく知られた薬を取り上げて、どのように人体に影響を与えるのか、紹介しました。標本の展示では、「ミクロ」な視点を取り入れ、美しい細胞の標本を実際に見学者「目」で見てもらえるよう知恵を絞りました。学生による「解剖展示ツアー」も好評でした。



中庭ステージ

中庭ステージでは色々なイベントが行われました。

ベストカップルコンテスト

“普段言えない想い”を手紙で伝えました。



MISS

“最も輝いている女性”に選ばれました！

兵医カップ

毎年恒例のクラブ対抗戦。応援にも熱が入ります。・猛者・べっしゃり・イケメン・人気者でいこう・決戦・カラオケ大会



空手部演武

迫力ある正拳突き、瓦割り、板割り、氷柱割りが披露され、歓声があがりました。

この他にも、SUNSET PREMIUM(軽音ライブ)STREET DANCE(ダンス)なども行われました！

医学講演会「運動と健康」

阪神タイガース 新井 貴浩 内野手

23日(日)平成記念館において、新井選手と学生との対談形式で実施されました。「試験などの成績に一喜一憂してしまうのですがどうやってモチベーションを保てばいいですか」という問いに、「目先のことだけにとらわれるのではなく、未来に目を向けてしっかりと頑張ってください」とメッセージをいただきました。他にも、野球や、チームメイトへの熱い思いを感じさせる話を聞くことができました。会場のお客さんからの質問にも気さくに答える一面も見せてくださいました。



医聖祭を訪れた方に新井選手への応援メッセージを白衣に書いてもらいました。



贈られたメッセージ入りの白衣を手にする新井選手。



講演会終了後は小児病棟を訪れて、一人ひとりに声をかけられ、子供たちは大喜びでした。

左から藤上さんと鳥野さん(共に大学祭実行委員 副委員長)新井選手

チュートリアル展示

1年生がグループごとに課題の問題点を明らかにし、討論を行って結論へと導くチュートリアル教育の中で、テーマに沿ってまとめた結果を発表しました。当日は見学者からの質問に答えるため、交代で対応しました。



高山さん



姜さん



藤原さん

入試案内

担当教員と1年生が入試に関する質問に答えました。



医療器具展示

医療・医学への興味・関心を深めてもらうため、実際の医療現場で使われている医療器具を展示しました。学生の説明付です。



妊婦さんの体験をしています



心音を聴いています



明石リハビリテーションセンターからお借りした義手・義足を展示しました。

軽音ライブ

4-1教室をライブハウスにしました！



模擬店

料理が得意な学生も、普段はしない学生も、協力して頑張りました。



篠山物産展

臨床栄養部及び篠山病院に全面協力いただきました。



バザー

開始時刻前に行列ができ、今年も盛況でした。



|学祭を終えて…

委員長(大嶋;以下『大』);大学祭無事終わってよかったね!!

副委員長(鳥野;以下『鳥』、藤上;以下『藤』);ほんまにお疲れさま!

大;全体的にめっちゃ良い学祭やったと思うけど、何が一番印象に残ってる?

藤;やっぱり、俺は医学講演会を主に担当していたから、阪神タイガースの新井選手をお招きしての医学講演会かな。

鳥;新井選手すごく優しくて、良い人やったね!!!何よりカッコよかった!!

大;講演会自体もすごく盛り上がったし、お客さんにも満足していただけたと思うで。

藤;終わった後、お客さんに「面白かったで」って言ってもらえたことが、すごくうれしかった!

大;平成記念会館で盛り上がったけど、俺が一番印象に残っているのはやっぱり中庭でのイベントかな。

鳥;今年からは、禁煙促進ブースとかエコキャップキャンペーンもやって、特に禁煙ブースではたくさんの人にタバコの恐ろしさとか分かってもらえたと思うよ!

藤;ステージのイベントとかどうやった??

大;どの企画もよく練られていて、見る方も参加する方も楽しめたんじゃないかな。お笑いライブも楽しかったし!

鳥;カラオケもみんな一生懸命頑張って練習していたみたいで、すごく良かったね!

大;まあでも大きな事故もなくステージイベントは大成功やったよ!

鳥;私が印象に残ったのは、医療器具展示やフリーマーケットかな。いっぱい人が来てくれてうれしかったわ。けど、医療器具展示では、よりわかりやすく説明するためにもっともっと自分から学ばないとアカンなあと思ったわ。

藤;えらい優等生みたいなコメントやけど(笑)...ところで、園遊会には予想以上の人が来たね!室内楽団の演奏とか、ダンス部のパフォーマンスとかすごく良かったね。

鳥;先生方も喜んでましたし!

大;来年以降もっといろんなクラブにパフォーマンスしてもらえたら、もっと盛り上がるはずや!

鳥;おきょう、最後に何かないん??

大;せやな。やっぱり、実行委員のみんなが一人一人責任をもって自分の仕事以上のことをしてくれたから、これだけ良い大学祭になったんとかうかな!みんなボンマにありがとう!また来年も...

鳥、藤:... (苦笑)



委員長
第2学年次 大嶋 恭輔



副委員長
第2学年次 鳥野 侑子(左)
第2学年次 藤上 友輔(右)



翌日の医学講演会に備えてリハーサル中
(11月22日撮影)



第37回聖祭実行委員会(中庭にて)

|秋期教員・保護者懇談会が開催されました

平成20年11月22日15時～19時、平成記念会館で秋期教員・保護者懇談会が実施されました。医学教育説明会・懇談会では波田学長の挨拶のあと、医学教育学の成瀬准教授から「兵庫医科大学の学生の気質と医学に対する意欲等」、鈴木医学教育センター長からは「関西学院大学への派遣、エスコート実習、マッチングに対する学生の変化」についての講演があり、約170名の保護者の方が参加されました。17時からは平成記念会館2階のアリーナで園遊会が開催されました。

今年は後援会の保護者懇親会と統合しての実施となり、保護者約150名、学生約150名が参加しました。学生クラブの室内楽団やダンスサークルの参加もあり、盛況のうちに終了しました。



医学教育説明会、懇談会



兵庫医科大学後援会 池添 逸夫会長



園遊会(懇親会)



ダンスサークル



司会者 学生会常任委員長 西川 宏樹さん(4学年次)



室内楽団

|学生相談室からのお知らせ

たまには違った分野の本を読んでみませんか?学生相談室には専門書以外の本があります。その中から何冊かピックアップしてご紹介いたします。他にも、まだまだありますので、どうぞお気軽に9号館4階の学生相談室を覗いてみてください。

心の『セルフケアシリーズ(全7巻)』が入りました。

自分を大切にするために、どんなふうを考え、行動を変えていけばよいか、分かりやすい言葉で書かれています。同時に、お友達の悩み相談の乗り方や、支え方についても紹介しております。

『デートレイプってなに?』親しい人からの暴力、過干渉...これって変なんですよ。
『共依存かもしれない』モノや友達の数で自分を満たそうとしていませんか?
『わたしの家族はどこかへん?』親が完全主義で...親との価値観のズレが膨らんで...など家族について考える本です。



ケアシリーズ以外にも小説や漫画があります。

例えば、『イン・ザ・プール』、『空中ブランコ』

さまざまな悩みを持つ患者が精神科医を受診。ところが精神科医は非常識な助言ばかり。患者が怒り落胆するうちになぜか解決してしまう小説。

『ツレがうつになぁ』

できる会社員の夫がうつ病を発症。うつ病になった日々を、温かく現実的な眼差しで綴った漫画。

『リストカット症候群から卒業したい人たちへ』

言葉にならない苦しさ、あるいは何なのかわからない思いに駆られて自傷や摂食障害にはまった人々を描いた漫画。切りたい、食べたい、吐きたい衝動から、身を守る工夫についても書かれています。



開室日 (受付時間 10時～18時)

月	火	水	木	金
	細野	家次		細野 家次

|平成20年度兵庫医科大学 篤志解剖体慰霊祭

平成20年10月21日(火)平成記念会館において、平成20年度兵庫医科大学篤志解剖体慰霊祭が厳かに執り行われました。慰霊祭は、本学の医学教育・研究及び医療の向上のために自らのご遺体を捧げられた方々を祭祀するため、毎年10月第3火曜日に無宗教の形で執り行われております。

本年度、新たに祭祀させていただきましたご霊位は、平成19年10月1日から平成20年9月30日までの間に系統解剖69柱、病理解剖33柱及び法理解剖203柱のあわせて305柱でした。本学教職員並びに学生は、ご霊位に対してそのご遺志に背くことなく、今後とも医学・医療の発展に寄与していくことを誓いました。

ここにあらためて全ての御霊のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の深いご理解に対し、心から御礼申し上げます。



平成21年度兵庫医科大学 推薦入学試験 結果

試験日：平成20年11月16日(日)

試験場：兵庫医科大学

選考方法：基礎学力検査、小論文、面接、調査書

合格発表日：平成20年11月25日(火)

募集人員	15名
志願者	63名(37名)
受験者	62名(36名)
合格者	15名(10名)
実質倍率	4.1倍

実質倍率は「受験者数 / 合格者数」()内は、女子・内数

平成21年度兵庫医科大学大学院 入学試験 結果

医学研究科入学試験(前期募集)

試験日：平成20年9月19日(金)

試験場：兵庫医科大学

選考方法：外国語試験

合格発表：平成20年10月3日(金)

受験者	11名
合格者	11名

課程を経ない学位申請者に対する外国語試験(第53回)

試験日：平成20年9月19日(金)

試験場：兵庫医科大学

選考方法：外国語試験

合格発表：平成20年10月3日(金)

受験者	7名
合格者	7名

|マイアミ大学に短期留学

平成20年8月28日から9月11日までの2週間、本学から第6学年次の飯田康さん、長浦貴史さんの2名がマイアミ大学に短期留学し、マイアミ大学ジャクソン記念病院の移植外科で学びました。



マイアミ大学留学を経験して 第6学年次 飯田 康

飯島尋子臨床教授の御紹介でJackson Memorial Hospital in Miamiの移植外科を見学させて頂きました。一週間は肝臓・膵臓移植チームで、二週間は腎臓・小腸移植チームで実習しました。朝の回診はInternとResidentが行います。当直明けのInternが一人で病棟の受け持ち患者全てのPresentationを行います。そして昼食後、Attending、若しくはFellowを交えたカンファレンスがあり、今度は彼らを交えた回診が始まります。それが終わると夜6時頃になっています。もちろん一日のイベントはそれだけではなく、朝10時からの術前・術後の外来診察や、ほぼ毎日に行われる移植手術、週一回開かれる内科との合同カンファレンス、病理カンファレンス、その他外部から人を呼んでのIntern向けの講演会等にも参加しました。

思えば、5年次の夏に沖縄のアメリカ海軍病院の短期のexternship研修に参加して、日米の医療の相違を目の当たりにしましたが、今回の留学で、外科医、とりわけ移植外科医の熾烈な活躍を尊敬すると共に、私が来年から就こうとしている医師という職業が、アメリカでも日本と同様に想像を超えた不断的努力の上に成り立っていることを痛感しました。これから医師として働くにあたって体力的にも精神的にも辛いときがやってきますが、Miamiで出会った魅力的で尊敬できるアメリカの医師達の後ろ姿を思い出して、そのハードルを乗り越えていこうと思います。そして、いつの日か私に多くの後輩が現れた頃には、飯島臨床教授のように、何らかの形で母校と後輩の為に役に立つ事をしたいと願っています。

最後に、この留学に際して支えてくれた飯島臨床教授、鈴木教授、古瀬講師、その他先生方、同級生や友人達、さらにMiamiで共に頑張った長浦君、そして私の両親に感謝し、感想文を終わらせて頂きます。



マイアミ大学ジャクソン記念病院での実習を終えて 第6学年次 長浦 貴史

このたび飯島尋子臨床教授のご紹介によりフロリダ・マイアミにあるジャクソン記念病院の移植外科にて2週間の実習をさせていただきました。

ジャクソン記念病院は、病床数約1500床を誇る南フロリダ最大の総合病院です。こちらの病院での兵庫医科大学生の実習は今年が初めてということもあり、ホームスティ先や詳しいことはマイアミに到着してからという、なんとも不安の多い出発でした。

いざ実習が始まると様々な国からやってきた医師や看護師、実習生がチームを組んでおりアメリカのスケールの大きさを感じました。

医療制度、研修制度、人種、宗教、法律のちがいなども含め違った角度から医療を見られたことはとても大きな経験となりました。繊細さ、勤勉さは、日本人のすばらしい長所であることも再確認できました。

今後この貴重な経験を生かせるよう努力していきたいと思います。また少しでも海外の医療に興味のある後輩のかたにはぜひお勧めしたいです。

最後になりましたがこのような機会を与えてくださった兵庫医科大学、マイアミ大学の関係者の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





肝疾患センター長 就任挨拶

内科学 肝・胆・膵科 教授 | 西口 修平

この度、10月1日付けで肝疾患センター長を拝命致しました。本学は、平成20年4月に兵庫県唯一の「肝疾患診療連携拠点病院」に認定されました。国の肝疾患診療体制の整備事業の一環です。すなわち、県内の60施設に及び肝疾患の専門病院や協力医療機関に対して指導的役割を担い、併せて、肝疾患について内科・外科・放射線科が従来独自に行っていた治療を、横断的で高度な水準で提供できるよう院内の連携体制の整備が求められます。具体的な業務内容としては、電話やメールなどによる相談支援業務を行うこと、学内の医療連携を緊密化し高度先進医療を提供すること、さらには医療従事者や一般市民への啓蒙活動を行うことなどが挙げられています。

本センターはこれらの責務を円滑に全うするために新たに設立されたものです。ビジョンや方向性は定まっていますが、具体化はこれから一つ一つ達成しなければなりません。要求されるレベルは高く多岐にわたるため、国は拠点病院にはこれらの業務に対する専任教員の増員が望ましいと考えています。このため、本学でも1名の医師の増員を理事会にお願いしております。さらに、関係する多くの診療科のご協力を頂かなければ当センターの実力と存在感を高めることは不可能です。当センターが円滑に機能することは、肝臓病治療に対する本学の評価がさらに高めると確信致しておりますので、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

第3回兵庫医科大学がんセンター講演会 「内視鏡で治す胃がん・食道がん」開催

平成20年10月18日(土) 15時～17時30分、平成記念会館において開催され、約300名が参加しました。兵庫医科大学病院では、平成19年11月にがん診療に特化したがんセンターを開設し、地域の皆さんに質の高いがん医療を提供できるよう取り組んでいます。

第3回目となる兵庫医科大学がんセンター講演会では、「内視鏡で治す胃がん・食道がん」をテーマに、下記演題にて、詳しくご講演いただきました。

■ 概要説明

座長:兵庫医科大学 中野 孝司 がんセンター長
「兵庫医科大学病院における早期胃がん内視鏡治療の実際」
兵庫医科大学 内科学(上部消化管科) 金 鋪民 学内講師

■ 特別講演1

座長:兵庫医科大学 外科学(上部消化管外科) 笹子 三津留 教授
「早期食道がん、早期胃がんに対する内視鏡治療の進歩」
国立がんセンター中央病院 消化器内視鏡部 後藤田 卓志 医長

■ 特別講演2

座長:兵庫医科大学 内科学(上部消化管科) 三輪 洋人 教授
「ヘリコバクター・ピロリ除菌による胃がん予防」
北海道大学病院 浅香 正博 病院長(北海道大学 消化器内科教授)



金 鋪民学内講師



中野 孝司がんセンター長



後藤田 卓志医長



笹子 三津留教授



浅香 正博教授



三輪 洋人教授



健診センター長 就任挨拶

臨床検査医学 教授 | 小柴 賢洋

このたび兵庫医科大学病院健診センター開設にあたりセンター長を拝命いたしました臨床検査医学の小柴賢洋でございます。健診センター長就任にあたり一言ご挨拶をさせていただきます。

20世紀は、基礎医学の進歩を背景に、病気の原因や病態の解析とそれに基づく診断・治療が発展した世紀と言えるでしょう。健診に関しても、特にがんの早期発見に重点をおいた検診が行われ、治療法の進歩も相俟って日本は世界でも有数の長寿国となりました。この「検診によるがんの早期発見・早期治療」は、日本人の半数ががん罹患する現代においては引き続き重要です。しかし、未曾有の高齢化社会を迎える21世紀の医学はそこにとどま

てはいけません。すなわち、単に寿命を引き延ばすのではなく健やかな生活を維持し生活の質Quality of Life(QOL)を保つために、健診によって「未病」の段階で「病気の芽をつみとる」ことが必須であると考えています。そこで兵庫医科大学病院健診センターでは、開設当初からいわゆる生活習慣病の健診(動脈硬化や糖尿病、脂質異常症)とがん検診を組み合わせ、近い将来には口腔衛生なども加えた全身の健康状態の把握、さらにはどの程度がんになりやすい体質なのかまで踏み込んだ大学病院ならではの総合的な健診を実施していきたいと考えています。是非皆様のご支援を賜り、また私どもの「健診」を健康維持のお役に立てていただきますよう、お願いいたします。

健診センター(1号館13階)

平成20年11月6日から予約制の人間ドックを開始しました。本学病院の基本方針の1つである「健康推進活動による保健・福祉の推進」の実現に向け、特色のある健診事業を目指し取り組んでいきます。

本学病院ホームページに健診センターの情報を開示しておりますので、ご覧ください。

URL:http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/medical_exam/



11月5日健診センター開設記念式典にて
左から小柴センター長 新家理事長 山村病院長

第5回病診・病病連携の会 開催

平成20年11月13日午後18時30分から3-2講義室において、地域医療機関から34名、本学から58名と総勢92名が参加して勉強会を実施しました。下記のテーマで発表が行われ、活発な質疑応答が行われました。その後、10号館10階レストラン「リビエール」において懇親会が実施されました。

■ テーマ1

「乳癌の最新治療・個別化治療とサポート体制」
乳腺・内分泌外科 三好 康雄診療部長

■ テーマ2

「小児外科における鏡視下手術の現況・鼠径ヘルニアと漏斗胸への適応」
小児外科 奥山 宏臣診療部長



三好 康雄診療部長



奥山 宏臣診療部長



篠山病院長就任挨拶

兵庫医科大学篠山病院 病院長 | 福田 能啓

平 成20年11月より、兵庫医科大学篠山病院病院長に就任いたしました。また、兵庫医科大学地域総合医療学講座を担当させていただくことになり、地域医療の充実および地域医療を支える医師の教育に従事し、総合診療医の養成に邁進する所存です。

篠 山は兵庫県の中北部に位置する小都市であり、昨今問題となっています「地域の医療崩壊」に無縁とは申せません。医療収支の点からは、病院の存続に有利な条件はありませんでしたので、国立病院から経営移譲されて10年目の節目にあたって存続が危ぶまれておりました。しかし、新家理事長の御英断により、兵庫医科大学篠山病院の存続が決定されました。そして、「篠山病院再生委員会」が組織され、組織の改編と機能の能率化がはかられようとしています。このような重要な時期に病院長としての責務を全うし、今後地域医療を推進してゆくには、「状況の分析」と「時期に合った適切な判断」が必要と考えます。幸いなことに篠山病院の優秀なスタッフに恵まれ、事務部長や他の運営管理部門スタッフの情熱にも助けられ、また篠山市や篠山市医師会、近隣の岡本病院、にしき記念病院との連携にも恵まれておりますので、篠山病院を中心として丹波・篠山地域の医療連携の確立に向けて励む覚悟です。

新 病院は平成22年春の竣工を目指して、平成21年春には新築工事が着手される予定です。私案ですが、竣工後は「兵庫医科大学篠山病院」から「兵庫医科大学篠山総合医療センター」に名称を変更し、大学病院としての診療・研究に加えて、地域に根ざしたプライマリケアを充実させて行きたいと考えています。多くの講座に支えられて、外来診療および入院診療が可能になっております。篠山病院スタッフ一同は、今後も大学病院としての診療レベルを維持して行きたいと願っております。

医師派遣を頂戴しております講座は数え上げられないほどにたくさんでございますが、今後もさらなるご支援を賜りたく存じます。

プ ライマリケア医・家庭医療医にとって、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、精神科神経科、臨床検査部などの診療部門の研修が必要です。さらに、内科学、外科学、整形外科、小児科学、産婦人科学、麻酔科学、放射線医学、リハビリテーション医学の習得は必須の診療科に挙げられています。プライマリケア医に必要な総合科の教育と診療の充実のために、総合診療部や救命救急センターのご支援も賜り、地域医療への貢献を目指し、たく存じます。また、栄養サポートチーム(NST)や在宅医療部門を設置し、各診療科と有機的に機能させることによって地域医療におけるチーム医療を実践したいと思います。

厳 しい医療状況にある今、兵庫医科大学篠山病院の病院長として、解決しなければならない最優先課題は、医療スタッフの充実問題と考えます。それぞれの診療科を維持し大学病院としての最高の医療を提供するためには、「医師不足」の状態を改善することが必須で、「看護師充足」の解消も最優先課題です。篠山病院と関連する地域だけの努力では到底解決できるものではないと考えます。どうか西宮本院からのご支援をよろしくお願いいたします。

兵 庫医科大学(兵庫医科大学病院)、兵庫医科大学篠山病院、兵庫医療大学は兵庫県の南に位置する三つの重要な地点です。このトライアングル連携が機能的になればなるほど地域医療への貢献に加えて医療レベルの向上も可能になると考えています。

ささやま探訪

篠山キャンパスのある篠山市は、兵庫県の中東部に位置する人口4万6千人ほどの市です。今号から、篠山病院のスタッフが、篠山キャンパスとその周辺環境、イベントなどを紹介。篠山市の魅力をたっぷりお届けします!

自然と歴史豊かなまち・篠山

山々に囲まれた自然豊かなまち、篠山市。山陰道の要衝であったこの町には、徳川家康の命により築城され2009年に築城400周年を迎える篠山城跡や、その城下町として発展した商家の町並みが今も残ります。盆地である篠山には、昼夜の気温差が大きい秋から初冬にかけて霧が発生しやすく、「丹波霧」と呼ばれる雲海はこの地域の名物にもなっています。また、丹波黒豆や丹波栗、11月解禁の猪肉などの山の幸に恵まれ、全国的にも有名な特産物ともなっています。

おもな特産物

丹波栗
丹波黒大豆
猪肉
ぼたん鍋
丹波大納言(アズキ)
マンサク など

イベント

第29回篠山ABCマラソン大会
1981年から開催されているマラソン大会。篠山城跡三の丸広場をスタート・ゴールとする日本陸上競技連盟公認のフルマラソンコースで開催。毎年8,000人以上の市民ランナーが参加しています。
開催日:平成21年3月1日(日)雨天決行

丹波篠山築城400年祭
平成21(2009)年に築城から400年を迎える篠山城。市全域で築城400年を記念したイベントが開催されます。
開催期間:平成21年4月4日(土)～平成21年10月25日(日)
明治維新後、城郭は大書院を残してほとんどが取り壊され、大書院も昭和19(1944)年1月6日に失火により焼失しましたが、平成12(2000)年4月に大書院が復元され、一般公開されています。



篠山大書院



大書院での舞楽公演(8月)



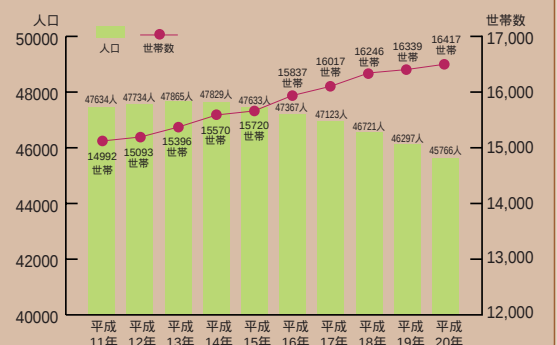
DATA

- 市の花 ささゆり(2004年4月1日制定)
- 市の木 さくら(2004年4月1日制定)
- 面積 377.61 km²
- 人口(2008年10月末現在)
人口 45,741人、世帯数16,417
男21,939人 女23,802人



市章

篠山市の10年間の人口および世帯数の推移



兵庫医療大学 海鳥祭

10月11日(土)・12日(日)に兵庫医療大学が開学して初めての学祭「海鳥祭(かいきょうさい)」を開催しました!海鳥祭という名前は大学が海に面していることと、大学のシンボルが鳥(フクロウ)ということから名付けられました。



上から見たら
こんな感じでした!



模擬店

＼安くておいしいよ～!／



大学祭に欠かせない模擬店!!部活やサークルの仲間で様々なお店を開いていました! たこ焼きや焼きそば、ちょっと変わったたこ焼き風クレープといったものなど様々でした!

『学祭はじめました～夏は冷やし中華、秋は海鳥祭～』

スローガンは『学祭はじめました～夏は冷やし中華、秋は海鳥祭～』

2007年4月に開学し初めての学祭ということでゼロからのスタートでしたが、大学祭実行委員の学生が中心となって協力し合い、第1回海鳥祭は大成功に終わりました。部活やサークルの模擬店や野外ステージのコンテストはもちろん、各学部の体験ブースもあり、地域の方にも本学のことを知っていただき、また楽しんでいただくことができました。

スローガンにもあるように、今後はこの季節になると「海鳥祭の季節だ!」と感じていただければと思います。それでは第1回海鳥祭の様子をレポートいたします!



野外ステージでは
コンテストだけでなく、
ライブやダンスなども
行われました。



松田学長も楽しんで
おられました♪



2日間とも快晴でした!!



各学部イベント



薬学部

漢方喫茶を開きました!アンケートに答えて自分にあった漢方のお茶が飲めます。石鹸作りもしていました!



理学療法学科

筋力測定やむくみとり体験などをしました!これは筋力測定をしているところです!



看護学部

アロマオイルを用いた手浴をしました!予約待ちができるくらい人気でした。気持ちよさそうですね!



作業療法学科

七宝焼き体験イベントをしました!みなさん真剣です。うまくできたかな?

医療講演会

明日へ前向きに～昨日を悔やまず今日を大切に～
11日(土)には古中 信也さんと美馬 麻梨子さんをお迎えして医療講演会が行われました。日々努力することの大切さや、毎日大切に生きてほしいということを通して、みなさん熱心に聞いていました。古中さん美馬さんありがとうございました。



大学祭実行委員のみなさんです



お疲れ様でした!!

野外ステージコンテスト

野外ステージでは様々なコンテストが行われました。雨が心配されましたが、2日とも天気にも恵

まれ楽しいステージになりました!!ここではコンテストの様子をご紹介します。

Mr.兵庫医療大学 コンテスト

2日目最初のコンテストはこれ!栄えある
第一回ミスター兵庫医療大学はこちら!



男装コンテスト

いつもはかわいい女の子!
でも今日はカッコいい男の子に大変身です!

Ms.兵庫医療大学 コンテスト

コンテストのトリを飾るのはこれ!ミス兵
庫医療大学!第一回の優勝者はこちら!



野外ステージで行われた各コンテスト
では見ているみなさんが「この人だ!」
という人に、10円を投票して優勝者が
決められました。
このコンテストの投票のお金はすべて
兵庫県介助犬協会へ寄付されます。

ベストカップルコンテスト

2人の相性がわかるゲームを通じて、我が
校一のベストカップルを決定!!



歌がうまい人決定戦

グループでのパフォーマンスから演歌ま
で幅広いジャンルがそろいました!

女装コンテスト

いつもはカッコイイ男の子!でも今日はし
ぐさまで女の子です!かわいいでしょ?



介助犬のナイト君も
学祭に来てくれました。

初めての学祭を終えて

第一回目ということで、直前までドキドキしていましたが、私たちの想像を超えた素敵な大学祭になりました。学生はもちろん、一般の方も楽しんくれたようです。新家理事長、松田学長も長時間に渡り様々な催しをご覧になっていました。実行委員全員がステージに上がり無事終了したことを称えあった閉会式は感動的で、今思い出すだけでも涙がでそうになります。

この大学祭を通して、兵庫医療大学の学生は思いやりがあり、学部や学年を超えて本当に仲がいいということを実感しました。実行委員以外の学生たちもイベントの警備をしてくれたり、掃除に参加してくれたり、とても協力的でした。

大学祭の準備は、2年生の春頃、数名での話し合いから始まりました。大学祭実行委員として、委員長(薬学部 三宅 咲奈)、副委員長(看護学部 峰 早也圭)、会計(リハビリテーション学部 理学療法学科 井木 つかさ)がリーダーとなり、総務、イベント(学内・学外)、模擬店、フリーマーケット、学部イベントなどの担当に分かれて、総勢57名の学生が頑張ってきました。とても仲が良く、学部ごとの垣根もなく準備を進めることができました。

色々と苦労はありました。何もかもがゼロからのスタートで、まず何をしたいのかわからない(笑)とにかく、何が必要かとことん話し合いました。各企業に協賛金のお願いをする時は、自分たちで名刺を作り、わかりやすく説明するなど工夫を重ねました。また、スローガンを決めるにも、イベントを企画するにも、先生方には丁寧に、時に厳しく指導していただきました。話し合いやリハーサルを重ね、とことん頑張った結果、みなさんに楽しんでいただける内容になったのだと思います。

当日の大学祭はもちろん楽しかったのですが、時間をかけて準備をやり抜いた充実感、いよいよ明日だ!という高揚感から、最後の詰めをしていた前日の夜が最も印象に残っています。そして、開催初日の朝、早くに集まってみんなで校歌を歌い、ラジオ体操をして、円陣を組み、気持ちを一つにしたことも忘れられません。写真のみんな、とてもいい笑顔をしているでしょう…。

大学祭の準備に関わってよかったことは、友達が沢山できたこと!学部を超えて、学年を超えて強いつながりができました。そして、色々なことに積極的になったこと。人前で話すことに慣れていない学生も多く、実は、三宅委員長もその一人でした。今では、堂々と話せるようになったね、と周りも褒めてくれます。今後の学生生活をより充実したものにしていけそう、という自信にもなりました。

準備から開催当日まで色々苦労したことは、全てノートにまとめて後輩に託しました。みんなで楽しく、互いに思いやりを持って、自分たちのやりたいこと、自分たちの特色を出した「海鳥祭」にしてほしいです。理事長、学長、先生方、教育・支援グループの方、その他関係者の方々や、協力して頂いた企業のみなさまに温かく見守っていただき、心から感謝しています。ありがとうございました。

12月10日 兵庫医療大学 会議室において
委員長:三宅 咲奈(薬学部)
副委員長:峰 早也圭(看護学部)
会計:井木 つかさ(リハビリテーション学部 理学療法学科)
総務長:高畑 美佐
総務:瀬尾 香奈



大学祭実行委員会(初日(10月22日)開演前に撮影)

12月4日に兵庫医療大学でツリーの点灯式が行われました。松田学長がツリーに点灯された後、イルミネーションが輝くツリーをバックにジャズ部によるライブと大学祭実行委員の一部によるハンドベルが行われました。参加者にはサンタクロースからのプレゼントとしてお菓子が配られました。



「ポアイ4大学による連携事業」が、文部科学省平成20年度「戦略的大学連携支援事業」に採択されました

兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学が連携して行う事業「ポアイ4大学による連携事業 - 安全・安心・健康のための総合プログラムを軸として - 」が、文部科学省の平成20年度「戦略的大学連携支援事業」に採択されました。

この事業は、神戸ポートアイランド(神戸市中央区)にキャンパスを構える大学のうち、兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学が立地的に隣接している利点を活かすことで、安全・安心・健康のための総合プログラムを軸としてそれぞれの大学の特色を活かしつつ高度な教育・研究活動で連携し、4大学のより効率の良い効果的で安定した大学経営を実現させ、継続的に地域社会に貢献していくことを目的としています。

具体的には、「ポアイ4大学連携推進センター」を神戸学院大学に設置し、センターの下部組織として、「ポアイ安全・安心ステーション」を神戸学院大学に、「ポアイ健康・生活支援ステーション」を兵庫医療大学にそれぞれ設置します。各大学が特色とする分野をコーディネートし、「ポアイ防災推進プロジェクト」と「ポアイ健康推進プロジェクト」を行います。

詳細は、「ポアイ4大学による連携事業」のホームページ(<http://www.kobegakuin.ac.jp/kp4uc/>)をご覧ください。



左から(奥)神戸女子大学・神戸女子短期大学 波田学長、(手前)兵庫医療大学 佐藤副学長、右から(奥)神戸学院大学 奥田学長、(手前)ポアイ4大学連携推進センター 金芳センター長
= 神戸学院大学ポートアイランドキャンパスにて

- 1 採択事業名
「ポアイ4大学による連携事業 - 安全・安心・健康のための総合プログラムを軸として - 」
- 2 代表校名
神戸学院大学
- 3 連携校名
兵庫医療大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学
- 4 関係自治体等
神戸市(中央区役所)、神戸市水上消防署、兵庫県神戸市水上警察署、神戸商工会議所、港島自治連合協議会、神戸市立港島中学校、神戸市立港島小学校、ポートピア保育園、株式会社社学生情報センター(Nasic)、神戸フットボール・ネットワーク、特別養護老人ホーム「ぽー愛」

兵庫医療大学と神戸市中央区との連携協力に関する協定を締結

兵庫医療大学と神戸市中央区との連携協力に関する協定を締結しました。この協定は、兵庫医療大学と神戸市中央区が包括的な連携を基に、それぞれの持つ人材や知識、情報などの資源を活用して相互に協力することにより、人材育成と地域活性化に寄与することを目的としています。調印式は、11月19日に神戸市中央区役所の会議室において執り行われ、同時に神戸市中央区と個別に連携協力に関する協定を締結する神戸学院大学、神戸夙川学院大学との合同調印式となりました。

この度の3大学と神戸市中央区の協定締結により既に締結をしている神戸女子大学、神戸女子短期大学を含め、神戸ポートアイランド内にキャンパスを設置する4大学と神

戸市中央区が協定を締結することになります。今後、大学と行政が協力し、大学と地域が発展していくことが期待されます。



11月19日合同調印式にて
左から松田学長、藤本・神戸市中央区長

実質倍率は「受験者数/合格者数」

試験日:平成20年11月15日(土) 合格発表日:平成20年11月26日(水)

A 口 程 併 願 制	学部学科	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
	薬学部 医療薬学科	10名	83名	77名	18名	4.3倍

試験日:平成20年11月16日(日) 合格発表日:平成20年11月26日(水)

併 願 制	学部学科	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
	薬学部 医療薬学科	10名	77名	76名	17名	4.5倍

試験日:平成20年12月6日(土) 合格発表日:平成20年12月12日(金)

臨床薬学研修センターの整備が進んでいます！

兵庫医療大学 薬学部 教授 八野 芳巳

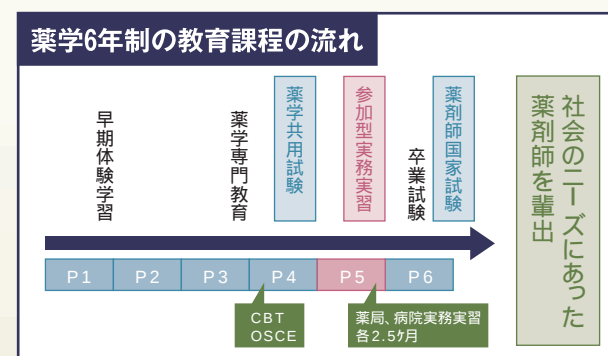
薬学教育6年制での臨床教育の中核となる「臨床薬学研修センター」の整備が着実に進んでいます。ご承知のとおり、薬学教育が6年制になって今年度で3年目になります。本学はそれより1年後の昨年（平成19年）4月に開学し、現在2年目を迎えております。この度の薬学教育改革での大きな変革点は、「臨床教育の充実」が薬学教育課程に盛り込まれたことであります。

新しい薬学教育課程では、第5学年次に大学を離れて臨床現場である地域の病院・薬局において合計約5ヶ月(22週間)実習を新たに行います。この実習は薬学部では「実務実習」と呼ばれていますが、医学教育での第5学年次の「臨床実習(クリニカレクレーション)」に相当するものです。臨床現場での「実務実習」を着実に身につけるために、薬学部の第4学年次にこの度整備された「臨床薬学研修センター」を中心に122コマ以上の事前学習を行い、「臨床薬学教育の充実」を図っていくことになります。また、第4学年次の末に実施される「薬学共用試験」(医学部の共用試験と同じコンセプト)の中のOSCE試験も当センターを中心に行うことになります。なお、今年中に当センターを使って「学内OSCEトライアル」を実施する予定です。

本学における当センターの特徴は「医療をより身近に実感しつつ実習する」ことをコンセプトの第一に位置づけて設

計したことにあります。その実習室の構成は「受付コーナー」、「調剤室」、「クリニカルトレーニング室」、「注射調剤室」、「無菌調剤室」から成っていて、今後さらに「DI室」、「患者対応室」、「薬品試験室」が整備され完成する予定です。

このように臨床薬学教育の中核として整備されている当センターを「医療人としてのトレーニングの拠点」として活用することによって、実社会で役立つ薬剤師を輩出することに繋がたいと考えています。



「ホームカミングデイ」を開催しました

平成20年10月18日、兵庫医科大学附属看護専門学校7F集合講義室においてホームカミングディが開催され、卒業生38名が参加しました。参加者たちが一人ずつ近況を報告すると、奮闘しながらも懸命に頑張っている様子に、先生方は「成長しましたね」と感動しておられました。

軽食を取りながらの団欒が続き、参加者たちは母校の同級生や先生方と語り合うことで仕事への思いを新たにしているようでした。

兵庫医科大学病院で頑張っている卒業生にインタビュー!

NICU 奥野 なみさん

仕事は大変ですが、患者さんが退院される姿を見ると嬉しく、励まされています。新生児の表情は様々で、一人ひとりにあわせた看護にやりがいを感じています。心配なさっているご家族のお気持ちにも添えられるになりたいと思います。



中川さん(左)と奥野さん(右)

10-7病棟 中川 弓恵さん

毎日忙しいですが、看護師としてやりがいを持って働いています。先輩は優しく、同期も多くて、いつも助けてもらっています。患者さんから「頑張ってるね」などと声をかけてくださることも多く、励まされます。寮生活なので仕事が終わって寮に戻ると友達が沢山いるので、明日も一緒に頑張ろう、という気持ちになれます。



看護師・助産師募集

兵庫医科大学病院、篠山病院で働いていただける看護師・助産師を募集中です。
応募については、下記までご連絡下さい。

WE SET SWEET

心地よい療養環境,Careの提供をめざします。

SWEETとはSincerity誠実(な行動)、Warmあたたかみ(対応)、Evidence根拠のある(実践)、Ethics倫理(的感性)、Technique(確かな)技術の頭文字です。
私たちが心に備えたいと願う5つの要素です。

兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL0798-45-6111(代)

病院ホームページ <http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/>

看護師募集についての資料請求・お問い合わせは

【兵庫医科大学病院 人材対策室】

0120-456-199

TEL:0798-45-6543 FAX:0798-48-6261



理事・評議員の異動

理事

就任 福田 能啓 [平成20年11月5日付]
辞任 岩崎 忠昭 [平成20年11月4日付]

評議員

就任 福田 能啓 [平成20年11月 5日付]
再任 佐藤 禮子 [平成20年12月 1日付]
再任 服部 益治 [平成20年11月26日付]
辞任 岩崎 忠昭 [平成20年11月 4日付]



福田 能啓

昭和24年生まれ
昭和50年 3月 弘前大学医学部卒業
5月 兵庫医科大学内科学第4内科臨床研修医
昭和52年 6月 新日本製鉄嘱託医(海洋事業部)、マレーシアに派遣
9月 明和病院内科医員
昭和53年 3月 兵庫医科大学内科学第4講座助手
11月 東京都立駒込病院内科(消化器内科)医員
昭和56年 6月 兵庫医科大学内科学第4講座助手
平成 7年 2月 兵庫医科大学内科学第4講座学内講師
7月 兵庫医科大学内科学第4講座講師
平成11年 4月 先端医学研究所講師(家族性腫瘍部門担当)兼任
平成13年 4月 兵庫医科大学消化器内科学講座に配置換え
平成14年 4月 兵庫医科大学消化器内科学講座助教授
先端医学研究所教授(家族性腫瘍部門担当)兼任
平成16年 5月 兵庫医科大学総合内科・下部消化管科助教授
平成18年 4月 兵庫医科大学病院中央診療部門 臨床栄養部 部長
8月 兵庫医科大学病院中央診療部門 臨床栄養部 臨床教授
平成20年11月 兵庫医科大学 地域総合医療学 教授(臨床栄養部長 兼任)
兵庫医科大学篠山病院 病院長・兵庫医科大学ささやま老人
保健施設 施設長・兵庫医科大学リハビリテーションセンター
センター長 併任

規程等の制定・改正 (規程等の全文は学内ネットに掲載)

No	項 目	制 定 ・ 改 正 の 趣 旨	制定・改正日
1	医療安全管理委員会規程	委員の構成を見直すため(削減)の改正	平成20年10月22日改正
2	インフォームド・コンセント 委員会規程	私立医科大学病院 医療安全相互ラウンド 自己評価表に掲げられているインフォームド・ コンセント委員会を設置するための規程を制定(現行の診療情報提供委員会規程は廃止)	平成20年10月22日制定
3	兵庫医科大学篠山病院 給与規程	篠山病院看護師等の深夜・準夜看護手当が改正されたことに伴い看護補助の夜間看護 手当についても改正	平成20年10月1日改正
4	兵庫医科大学篠山病院 運営協議会設置要領	「兵庫医科大学篠山病院の運営と整備に関する基本協定書」に基づき、兵庫医科大学 篠山病院運営協議会の設置運営について要領を制定	平成20年10月1日制定
5	兵庫医科大学 ささやま老人保健施設給与規程	篠山病院看護職員の深夜・準夜看護手当の改正に伴い、ささやま老人施設の看護師・ 准看護師・介護福祉士の夜間勤務手当を改正	平成20年10月1日改正
6	学校法人兵庫医科大学 情報センター規程	医療情報部と医療情報課の役割と機能を見直し、情報システムに関する企画・統合管理・ 事後評価等について、既存組織に対して横断的、かつ、集権的に管理・運用する組織と して情報センターを設置するための規程を制定	平成20年8月1日制定
7	情報センター 運営協議会規程	学校法人兵庫医科大学情報センター規程に基づき情報センターの運営規程を制定	平成20年8月1日制定

兵庫医科大学病院 篠山病院・ささやま老人保健施設 学校法人兵庫医科大学

丹波篠山物産展が開催されました

平成20年10月16日、午前10時から1号館1階西側において、丹波篠山物産展が開催されました。
「篠山病院がある篠山市をもっと知ってもらおう」と、有限会社クリエイトさ
さやま(篠山市出資による第3セクター)主催、篠山市と兵庫医科大学の
協賛で、丹波篠山で人気の特産物が販売されました。
当日は、丹波篠山特産の黒大豆枝豆や山の芋、新米コシヒカリや、黒
豆パン、黒豆甘納豆、黒豆茶、その他名産品が並び、盛況な売れ行きと
なりました。



第15期生
西原 弘道 さん
医療法人社団 弘道会
西原クリニック 理事長

近況

平成15年に尼崎市に14床を有する救急告知診療所を開設し、一
次救急に力を入れ、日々診療に従事しております。また、一次救急の
必要性を診療を通して実感し、平成18年に伊丹市に19床の救急告
知診療所を開設致しました。地域医療に貢献すべく診療に従事する
とともに、医師会活動や緑樹会活動等充実した毎日を送っています。

学生時代

兵庫医科大学での6年間は人生の中で最も有意義な期間であ
ったと思います。すばらしい先生方や友との出会いを通して、医療人た
るものの有り方を学ばせていただきました。当時2回あった卒業総合
試験は非常に厳しいものでありましたが、これに通れば国家試験は必
ずパス出来ると信じ勉強したことを、今では懐かしく思い出されます。

卒業後に学んだこと

卒業後は第1外科(現、岡本英三名誉教授)に入局しました。非常に
厳しい教室でありましたが、教室全体が岡本英三先生を父親とした家族
の様であり、外科医のイロハを教えられました。岡本先生からは患者さん
が一番であり、患者さんのために医療があるということを叩き込まれました。
この教えが、今の医師としての自分の財産であると確信しております。

第17回日本医師バスケットボール大会で
優勝しました!

ペインクリニック部 柳本 富士雄



平成20年10月12、13日に第17回日本医師バスケットボール
大会が香川県高松市で開催され、兵庫医科大学OBチーム「ス
バルタンズ」がVリーグ1部(4部まであります)で5回目となる優
勝を果たしました。
この大会は、バスケットボールを通じて世代を越えた縦の出
身大学の繋がりと、日々の診療に役立つように施設間の横の
繋がりを深めるために、平成4年に8チームの参加で始まりました。
第17回目となる今大会では、“ 交流を目的とする ”Eリーグに35
チーム、“ とことん勝負にこだわって優勝を争う ”Vリーグに31チ
ーム、女子のLリーグに14チームの計80チームが参加し、総勢
1000名を越える大規模なものとなりました。
新臨床研修医制度で母校での研修が困難となり、OB会結
束の弱まりが危惧されていますが、私たちがこのような成績を
おさめることができたのは、現役の兵庫医科大学バスケットボ
ール部の皆さんのご協力と、素晴らしい平成記念会館の設立
にご尽力頂いた方々のおかげです。ありがとうございました。



【後列左から】
野村(大阪警察病院救命センター)、原田(ハワイ大学)、加藤(本学研修医・平成
20年本学卒)、渡辺(NTT東日本札幌病院)、神原(本学麻酔科・平成9年本学卒)、
伊藤(土山病院・平成16年本学卒)、井谷(宝塚市立病院・平成14年本学卒)、馬
場谷(本学研修医・平成20年本学卒)、池田(本学研修医・平成20年本学卒)、下
山(甲南病院研修医・平成19年本学卒)
【前列左から】
柳本(本学ペインクリニック部・平成9年本学卒)、佐川(本学耳鼻咽喉科・平成14
年本学卒)
氏名(現在所属・本学卒業生のみ卒業年度)

卒業生紹介

略歴

平成 4年 3月 兵庫医科大学卒業
6月 兵庫医科大学第1外科入局
平成 6年 6月 医療法人協和会 川西協立病院外科
平成 9年 9月 兵庫医科大学第1外科医員
平成10年 9月 医療法人朗源会 大隈病院外科医長
平成14年 9月 医療法人朗源会 大隈病院外科部長
平成16年 3月 西原クリニック開設
平成18年 1月 医療法人社団弘道会設立
12月 第2西原クリニック開設

兵庫医科大学に期待すること

大学病院は医療における最後の砦であると思います。神戸と
大阪にはさまれた重要な位置にあり、この地域の医療の中枢を
担う病院になることは言うまでもなく、すばらしい臨床医や研究者
をたくさん輩出し、地域住民のみならず京阪神で最もすばらしい
大学病院であると皆様から言われるような大学になってもらいた
いと思います。

在学生の皆さんへ

現在、兵庫医科大学の卒業生は全国で活躍しています。医
師となり社会に出て行くためにも大学時代の6年間は、最も大切
な時期であります。この時期に、良き友人や先生方に出会い、数
多くの貴重な経験をするにより立派な人格を形成して下さい。
そして医師となり、我々と共にこれからの医療界を担っていこうで
はありませんか。皆さんが素晴らしい医師となり社会に巣立つこ
とを心から祈っております。

兵庫医療大学のための募金 状況報告

「兵庫医療大学」のための募金活動を平成18年5月に開始して以来、これまでに教職員をはじめ、後援会（保護者）、緑樹会（卒業生）、名誉教授、退職者等（645名）は言うに及ばず協力医療機関や関連病院等を始めとする幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、誠に有り難く、厚くお礼申し上げます。

本学法人といたしましては、ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、感謝の意を表したいと存じ、下記のとおり報告させていただきます。

皆様からご寄付いただきました寄付金を兵庫医療大学の教育研究用施設整備等充実に利用させていただくとともにこれからも全力で大学の合理化推進等により、必要資金確保に向けて自主的努力を重ねてまいります。加えて、ぜひとも関係各方面からの更なるご支援を仰ぎお力添えをいただきたく、引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

募金推進室

18. 5. 2～20. 10. 31

区 分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合 計	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
申 込	342件	642,324,000円	662件	188,870,000円	1,004件	831,194,000円
入 金	335件	602,774,000円	658件	188,430,000円	993件	791,204,000円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧

20. 5. 1～20. 10. 31

企業等法人（4法人）

（ご芳名のみ記載）

日本アルコン株式会社様
東洋建設株式会社様
丸石製薬株式会社様
医療法人 増山医院様

教職員

250,000円 中西 健様
70,000円 河村 康彦様
50,000円 岩佐 美和子様
元 嶋 寛 幸様

（ご芳名のみ記載）

飯田 慎一郎様
内 田 正子様
加門 恵美子様
本田 耕一郎様
横山 茂和様
匿名 8名



屋根瓦葺き(11月)



屋根鉄骨トラス建て込み(10月)

建設中の体育館全景(神戸女子大学側から)
< 11月末現在 >

職場

REPORT

リポート

サポートの中にも優しさと厳しさを

兵庫医科大学

教務学生課

学生のサポートが仕事です！

教務関係と学生関係の業務を行っており、事務員10名とアルバイト2名、学生保健室で学生の保健指導を担当する保健師1名で、医学教育センターも連携しながら学生のサポートをしています。

試験や行事等、年間のスケジュールに沿って業務が進んでいきますが、総合試験、大学祭、卒業式、入学式など行事が重なる秋から春にかけては年間で最も忙しい時期です。本年から始まった白衣授与式や、関西学院大学との連携講座、プレゼンテーション試験（5学年次のクリニカル・クラークシップで担当した患者さんについてプレゼン形式で発表）など、新しい取り組みのサポートもしています。学生の年次ごとの担当制もっており、第1学年次～第6学年次それぞれのカリキュラムに沿ったサポートを心がけています。

コミュニケーションを大切にしています

教務学生課ではコミュニケーションを大切にしています。月に1、2回の教務学生課連絡会では教務委員会、学生部委員会での決定事項なども伝えられます。学生向けの掲示板の情報もリアルタイムで必ず全員に周知していますし、毎日の朝礼では連絡担当者を一週間ごとに交代して、互いの業務について情報を細かく共有しています。

ほとんどの業務に主担当、サブ担当を配置し、配属されて間もない時期は、サブ担当として全体の業務に幅広く携わってもらうようにしています。これにより各業務への理解が深まると同時に、多くの人と一緒に仕事をすることで、仕事の進め方などを参考にする機会を持てると考えています。また、学生とは学生会のスタッフを中心としてコミュニケーションを取り、要望を取り入れたり、教員への橋渡しも行っています。

学生によりよい学習環境を、職員に伸び伸びと仕事ができる環境を 上野 孝子さん

学籍管理、成績管理、教育要項の作成、開学連携講座など、主に教務関

係を中心とした業務を担当しています。配属されて間もない頃は、医学部特有の複雑なカリキュラムを理解するのに戸惑いましたが、現在は新カリキュラム編成にあたって教員と連携し、そのサポートをしています。また、関西学院大学との連携講座では、学生には本学以外の学生生活の雰囲気も体験してほしいと思っています。始まったばかりで課題もありますが、学生同士がもっと交流を深められるような充実したものにしていければと考えています。

業務上、特に気を付けていることは成績や試験問題の取扱い。重要な個人情報ですので厳重なセキュリティ対策の下、責任を持って管理しています。職場では、全員が意見を出し合ってよりよい仕事ができるよう、「お互いに声をかけやすい」雰囲気づくりを心がけています。若い人が伸び伸びと仕事ができる環境を整えて、後輩育成にも力を注ぎたいですね。

学生からも気軽に声をかけてもらえる存在に 高嶋 国海さん

主に、窓口業務、保健関係、保険関係、慰霊祭や大学祭などの行事と、第1学年次の担当など、学生関係を中心とした業務を担当しています。大学卒業後に入職して教務学生課に配属されて3年目です。配属後すぐに担当として携わった献体業務では、戸惑いや不安も多くありましたが、2年目、3年目となった今、ご遺族のお気持ちを考えながら落ち着いて対応できるようになりました。これからも、色々と経験をして対応できることを少しずつ増やし、効率よく業務をこなせるようになりたいと思います。

特に、窓口業務では迅速な対応を心がけています。学生は休み時間に集中してやってくるので、貴重な休み時間を削らないよう、努めています。年齢が近いこともあり学生からも気軽に声をかけてもらえる存在になりたいですね。





兵庫医科大学病院

看護部 10-9病棟

「患者さんが満足して退院する病棟」に

10-9病棟は、消化器内科の病棟です。クローン病や潰瘍性大腸炎、消化器がんなどの患者さんが主で、入退院を繰り返す方が多いため、在宅療法の指導を含めた継続看護を行っています。スタッフは、20～30代の若手が多く、仲の良さが自慢の、明るく活気のある職場です。

今年の目標は「患者さんが満足して退院する病棟」。患者会に積極的に参加したり、アロマテラピーを取り入れるなど、患者さんの立場に立った看護を実践しながら「自分の行動に責任を持って意見をはっきり言える病棟」を目指して頑張っています。



左から、黒石真里絵さん、岩井美和さん、吉田智子さん

将来は認定看護師を目指したい

主任看護師 吉田 智子さん

当病棟は、比較的受け持ちの人数が多く、良い状態と悪い状態を繰り返す慢性疾患の患者さんが多いため、患者さんの状態をきちんと把握して業務が円滑に進むよう調整をしています。入退院も多いですし、内視鏡検査や治療も多いため、検査出しや検査・治療後の観察、輸液管理などが重なってバタバタすることもあるので、スタッフの状況にも気を遣っています。主任職として後輩の育成、指導を行いながら、認定看護師の資格取得も目指したいと思っています。

リンケースとして感染予防に努めています
黒石 真里絵さん

リンケースとして、感染予防について実践・指導しています。当病棟では、24時間絶食しながら点滴を行うといった治療も行われ、長期に点滴の針を入れていることも多く、カテーテル感染が起こりやすい状況にあります。そこで、病棟独自で細かな感染率の調査を行い、適切なケア・処置に役立っています。今後も感染防止技術の向上に努めながら、感染管理についての知識を深めていきたいと思っています。

緩和ケア・家族ケアにも取り組んでいきたい 岩井 美和さん

炎症性腸疾患の患者さんは病歴が長い方が多く、ご自身の体験からの知識も豊富なので、新人の頃は自分になかなか自信が持てなくて戸惑いました。現在チームリーダーとして指導する側になってきていますが、情報の正確な伝達とともに、患者さんの反応やその人の良いところまでをきちんと伝え、新人にも自信を持ってもらいたいと思っています。

当病棟には末期のがん患者さん多いからなので、今後は緩和ケア・家族ケアも積極的に学び、取り組んでいきたいと考えています。患者さんやご家族に「あなたがそばにいてくれたらホッとする」と言っていただける看護師になりたいですね。



兵庫医療大学

教育・学生支援グループ

教育面から生活面まで幅広く学生を支援しています

教育部門6名と学生部門6名の計12名で、教育面から生活面まで、幅広い学生の支援を担当しています。具体的には、教育部門がカリキュラムや履修、試験、成績、実習に関することや物品の貸出など、学生部門が奨学金、課外活動、住宅・健康面などの福利厚生に関することなどを受け持っています。毎日学生が窓口に来てくれるため、明るく活気にあふれている一方で、試験・成績処理など個人情報などを取り扱う部署でもあり、緊張感が必要な職場でもあります。

11月には前期の成績発表が行われましたが、今年度から、前期・後期と2回に分けての成績発表、及び可否に係る照会制度が導入されました。また、来年度から、ポートアイランド4大学連携単位互換制度の実施や、兵庫医科大学医学部の学生とのチュートリアルを実施するなど、新しいことにも意欲的に取り組んでいます。

私たち職員は最も身近な社会人 白神 知佳さん

教育部門を担当しています。窓口で学生の対応をするときには、学生が「自ら考えて行動できる」よう心がけて接しています。レポート提出一つをとっても期限やルールがあるなど、学生にとって一見事務的な窓口に感じるかもしれませんが、視点を変えればその窓口には“社会に出たときに必要なこと”を学ぶチャンスがたくさんあります。

そういう意味でも私たち職員は学生から見て最も身近な社会人であり、教育の一翼を担っているという意識を常に持ち、教員とのより良い信頼関係の構築や、職員力を身につけるための研修会参加に努めていきたいと思っています。将来、卒業生が立派な医療人として活躍するのが楽しみです。

より良い環境・仕組みづくりに取り組んでいきたい 辻本 真輔さん

学生部門で奨学金事務や課外活動・学生会活動の支援などを担当しています。前職が一般企業だったため、配属して間もない頃は、若い学生との接し方がわからず、窓口で戸惑うことも多かったです。最近はようやく慣れて、学生の目線に立って、明るく、優しく接することができるようになったと思っています。

本学の学生は、真面目で、自分たちでやっていこうという自主性が高いように感じます。先日、本学では初めてとなる第1回大学祭「海祭祭(かいきようさい)」が学生主体で開催され、大いに盛り上がりました。初めての開催ということもあり、終了後、涙を流す学生の姿も見られました。学生会活動の支援を担当していることもあり、最後にステージから私の個人名でお礼を言っていたいた時は、嬉しかったですね。

今後も、学生にとってより良い学生生活が送れる環境づくりや仕組みづくりに取り組んでいきたいと思っています。



白神さん(右)と辻本さん(左)

兵庫医科大学で最大規模のクラブです

ゴルフ部 主将 4年生 祢木 芳樹さん

ゴルフ部は全学年合わせて50名以上の部員が在籍し、兵庫医科大学で最大規模のクラブです。練習は週に2回の打ちっぱなし場での練習を基本に、ショートコースを回ったり、夏期、春期の長期休暇には合宿を行っています。

ほとんどの部員が大学入学後にゴルフを始めましたが、昨年度の西日本医科学学生総合体育大会ゴルフ部門では上位入賞し、今年度から新たな試みとして、ティーチングプロに来ていただくなど、日々、ゴルフ技術の向上に努めています。

またゴルフ部の大きな自慢が、学年、男女問わず、大変仲が良いという事です。休日には一緒にラウンドに行ったり、遊びに行ったりしています。さらに本学ゴルフ部は近隣大学医学部のゴルフ部とゴルフコンペや飲み会などの交流も盛んに行っており、大学を超えて、友人の輪が広がります。

最後に、ゴルフ部のモットーは「文武両道」であり、ゴルフだけでなく、勉学にも手を抜きません。これからもゴルフに勉学に、そして遊ぶ事も含め、大学生活を謳歌していきたいと思っています。



「魅力あるサッカー部」を目指しています

サッカー部 キャプテン 4年生 大八木 誠児さん

サッカー部は19名で活動しており、週に3回、鳴尾浜グラウンドで練習しています。

残念ながら部員数が多いとは言えないのですが、その分、上級生と下級生の垣根がなく、様々なことについて意見交換が行われています。また、マネージャーとして本学の学生はもちろん、武庫川女子大学の学生も所属しており、他大学の学生が交流できる貴重な場となっています。

部活動をする上で、第一にチームを強くして、試合で勝てるよう積極的に練習しています。また、サッカーだけではなく、良い意味での上下関係のあり方、集団で行動する上での身の振舞い方など、社会に出てからも必要とされる人間性を養えるよう、皆が努めています。最近では、皆で日本代表戦の応援に行きました。とても楽しく、興奮しました。

これからも、一つ一つの試合でベストを尽くし、勝ち続け、周囲から見ても「魅力あるサッカー部」を目指したいと思います。そして、メンバー増員につながればいいと思います。



兵庫医療大学のクラブ・サークル活動を活気づけたい

サッカー部 代表 薬学部2年生 伊藤 嘉洋さん

現在25名で活動しており、週2回練習しています。週末には他大学と練習試合をしたり、長期休暇には遠征して対外試合を行ったりしています。

メンバーは皆サッカーへの情熱が強く、個性豊かな集団です。時には厳しく指導し合い、また時には優しくフォローし合って、お互いを高めあうことができる部です。

学部によって授業終了時間などが異なるため、人数が少ない時でもしっかり練習しています。練習や試合で目標、テーマを決めてレベルアップできるように取り組んでいます。

夏休みに「an SOCCER SUMMER TOURNAMENT」という大学サッカーの大会に参加し、21チーム中7位という成績を残すことができました!

今後も対外試合を多くこなして実践を積み、関西学生サッカー連盟に加盟を果たし、その後の大会でよい成績を残して兵庫医療大学のクラブ・サークル活動を活気づけたいです。



ライブハウスを作りました

軽音楽部 部長 薬学部2年生 石井 利佳さん

現在40名が所属しており、普段はバンドごとに分かれて練習をしています。半期に一度軽音楽部全体のライブを行ったり、他大学の軽音楽部と連絡を取り合い、合同ライブに参加したりしています。兵庫医療大学のことを周りに知ってもらうためにも、他大学との交流は積極的に行っています。

メンバーは個性派ぞろいで一見協調性が無いように見えますが、ライブを行う時や、大学祭などのイベントでは協力し合って頑張っています。



10月に行われた兵庫医療大学の第一回目となる大学祭「海鳥祭」では、野外ステージでライブを行った他、教室にライブハウスを作って軽音楽部の「今」を体感してもらいました。

これからも、部内はもちろん、他大学の軽音楽部とのつながりを強くしていきたいです。

平成20年を振り返って

1月



神戸ポートアイランドキャンパス
4大学連携協定調印式

2月



地域がん診療連携拠点病院 指定



兵庫医科大学入試



兵庫医療大学入試

3月



兵庫医科大学がんセンター設立記念講演会



兵庫医科大学卒業式



看護専門学校卒業式



兵庫医療大学第1回保護者懇談会

4月



兵庫医科大学入学式



兵庫医療大学入学式



兵庫医科大学白衣授与式



肝疾患診療連携拠点病院 指定



兵庫医科大学・関学連携講座スタート



看護の日 ふれあい看護体験



平成21年度兵庫医科大学病院
臨床研修医募集説明会



篠山病院再生のための基本コンセプト説明会



兵庫医療大学体育館建設工事安全祈願祭



兵庫医療大学 第1回オープンキャンパス

7月



篠山病院の運営と整備に係る基本協定締結



兵庫医科大学・クローア・リエカ大学交換留学



兵庫医科大学 早期臨床体験実習



第1回兵庫肝疾患診療連携フォーラム

8月

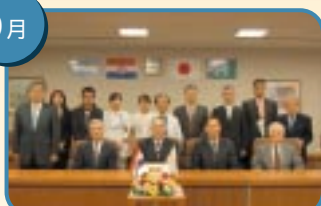


兵庫医科大学 キャンパス見学会

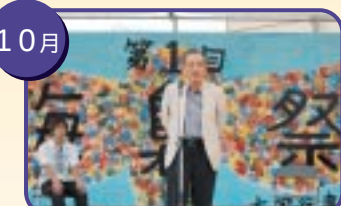


兵庫医療大学 早期臨床体験実習

9月



クローア駐日大使表敬訪問



兵庫医療大学第1回大学祭「海祭」



兵庫医科大学 篤志解剖体慰霊祭



健診センター・人間ドック開始

10月



兵庫医療大学と神戸市中央区との連携協力に
関する協定締結(合同調印式)



兵庫医科大学第37回大学祭「醫聖祭」

12月



兵庫医科大学支援型の保育園
「兵庫武庫川園」オープン



「ボーアイ4大学による連携事業」
開設記念シンポジウム